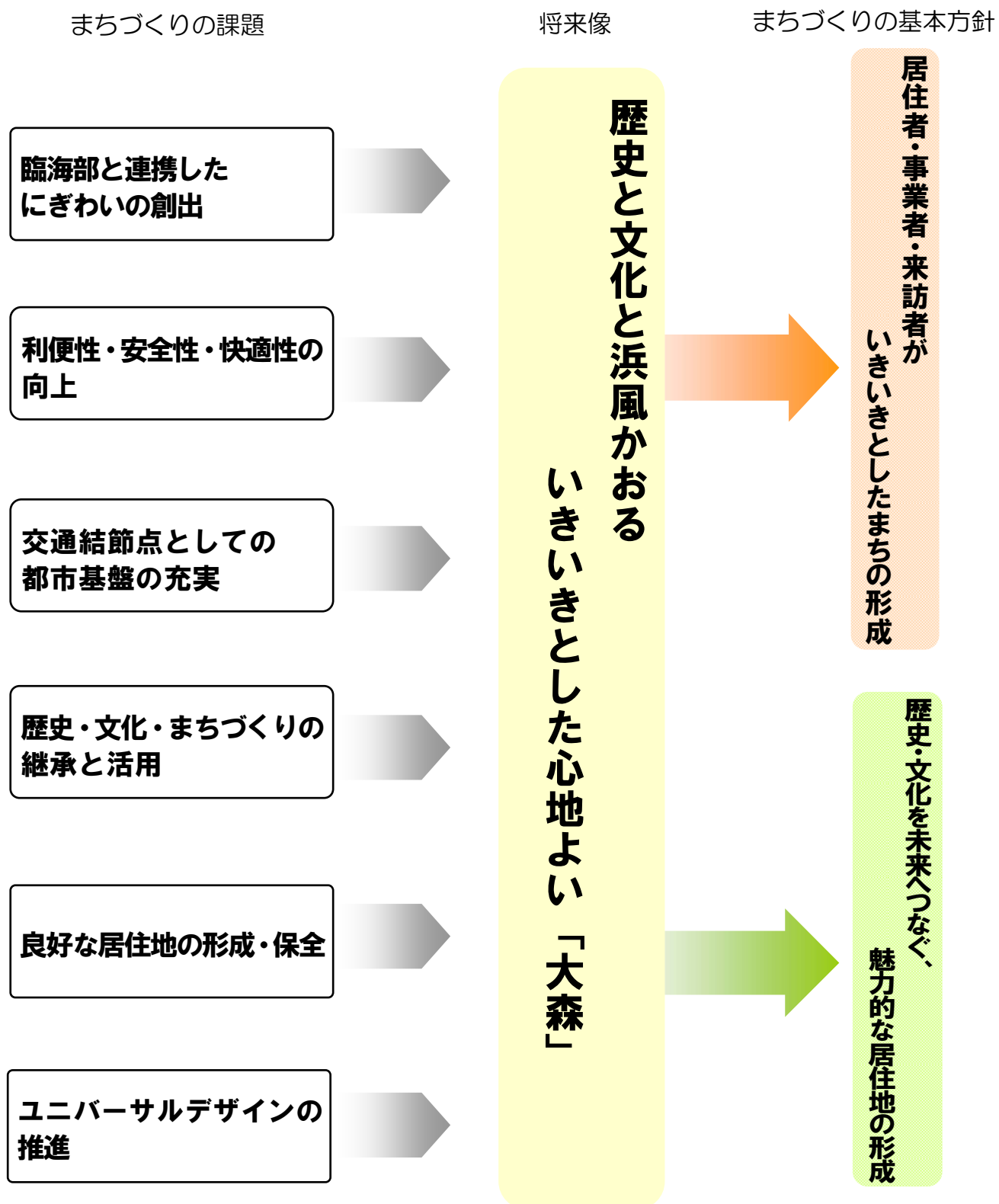


第4章 まちづくりの目標

1. まちづくりの目標の基本的考え方

まちづくりの目標は、「まちの将来像」や「まちづくりの基本方針」を実現するために掲げる個別目標であり、地域住民、事業者、行政が協働して達成を目指す目標です。

第2章のまちづくりの課題や第3章の将来像とまちづくりの基本方針を踏まえ、地域の特徴から、「浜風かおるにぎわいエリア」、「文化かおる緑のエリア」に分けて、目標を設定しました。



2. 「浜風かおるにぎわいエリア」におけるまちづくりの目標

目標1 大森海苔や旧東海道などの歴史・文化、臨海部施設の魅力あふれるまち

大森駅東側の臨海部は、大森海苔の産地として知られているとともに、旧東海道など、歴史・文化が残されている場所です。また、大森海苔のふるさと館や大森ふるさとの浜辺公園など、魅力的な施設や公園が整備されており、観光や憩いの空間として多くの来訪が期待されます。

そのため、歴史・文化・観光施設などの資源を活用しながら、ブランドづくりや魅力の発信、来訪者へのおもてなしの充実を図り、浜風かおるにぎわいエリアと臨海部との連携による集客増加も見据えた、来訪者が楽しめるまちを目指します。

目標2 活発な地域活動による地域力のまち

効果的で持続可能な地域のまちづくりを進めていくためには、行政の力だけでは不十分であり、地域住民や商店街、事業者、地域活動団体との連携が必要不可欠となります。特に、にぎわいを生み出す地域特有のまつりやイベントの開催などは、各主体の取組みが重要となります。

そのため、地域にかかわる各主体が力をあわせて、総合的な地域力の向上を目指します。

目標3 まちなかの回遊性と、臨海部や羽田空港へのアクセス利便性の高いまち

多くの集客施設がある臨海部の資源を活かし、来訪者が大森駅を起点として駅周辺部や臨海部を回遊することにより、まちなかや臨海部が活性化することが期待されます。しかし、臨海部や羽田空港へのバスの本数が少ないなど、アクセスがやや不便です。

そのため、容易に移動できる仕組みが求められ、特に大森駅東口周辺は、臨海部や羽田空港など、様々な場所を訪れることができるように、便利な交通機関の導入検討を行います。

また、駅周辺を中心に、安全で快適な歩行者空間を確保することで、だれもが利用しやすい歩いて回遊できるまちづくりを進めます。

目標4 快適・安全な自転車環境

駅東側から臨海部にかけての平坦な地形や商業施設等の集積により、駅周辺は自転車が多く利用されています。しかし、自転車等駐車場の不足や利用マナーの問題、走行環境が整っていないなどの課題も多く、安全で気軽に移動できる自転車環境づくりが求められています。

そのため、自転車等駐車場の整備や地域を回遊しやすい自転車走行レーン整備とネットワークづくりを進めるとともに、自転車利用のルールづくりやマナー向上への呼びかけを行い、子どもや高齢者、障がい者なども安心して快適に移動できる環境づくりを目指します。

目標5 居住者や来訪者にとって魅力ある商店街

浜風かおるにぎわいエリアの商店街には、駅に近く、多くの人々が利用する立地の優位性があるものの、商店や販売額の減少、にぎわいの不足、商店街や事業者間のつながりの希薄化などの課題があります。

そのため、各主体の連携により、商店の経営向上や人材の育成、空き店舗の活用に取り組み、居住者や来訪者のニーズに応える元気な商店街づくりを進めます。

目標6 住居・商業・業務が調和・共存した市街地

商業・医療施設などが充実した浜風かおるにぎわいエリアは、便利な住宅地となっていますが、広告物や路上放置物、統一感のないまちなみ、騒音、ごみ問題、防犯ニーズの高まりなど、内在する課題が少なくありません。

そのため、地域住民、自治会・町会、商店街、事業者、行政などが連携して、建物の建て方や敷地の使い方、景観づくりのルールを検討するとともに、マナー向上への呼びかけや、防犯対策などを行い、安全で魅力的な市街地を目指します。

目標7 大森駅周辺の充実した都市基盤

羽田空港の国際化に伴う交通量や来訪者の増加が想定され、より一層、利便性の高い、魅力あるまちづくりが求められます。しかし、駅東口は、車両と歩行者動線の交錯や客待ちタクシーの列の課題、駅西口では、駅前空間、池上通り拡幅の未整備、バス・タクシーの停車に起因する交通渋滞や歩行者の通行障害が発生しています。

そのため、駅東口は、交通安全性の確保やまちの回遊性の向上を図るとともに、まちなかや臨海部、羽田空港への広域交通拠点とするため、利便性の高い交通結節点づくりなど、駅前広場の機能強化を進めます。駅西口は、周辺の住環境に配慮しながら、池上通りの拡幅整備と連携した再開発や建物の共同化等を進め、ゆとりある駅前空間づくりを進めます。また、駅東西の人々の往来を促進するため、利便性の高い東西自由通路の確保を目指していきます。

3. 「文化かおる緑のエリア」におけるまちづくりの目標

目標 8 区民(地域)活動団体と行政が連携した、大森貝塚や馬込文士村などの歴史・文化のかおるまち

駅西側は、大森貝塚や馬込文士村、山王会館、郷土博物館などの歴史資源や文化施設に富んだ地域です。その魅力を区内外へ発信し、気軽に散策できるルートづくり、地域ガイドの養成、未来のまちづくりを担う子どもたちへの教育、地域活動団体の活動サポートなどを行い、歴史・文化を継承・発信できるまちづくりを進めます。

目標 9 山王の地域特性を活かした住み続けたいまち

起伏があり、緑資源の広がる山王地区は、独特の景観を漂わせる区有数の良好な住宅地ですが、土地の細分化による緑資源の減少への対策や、太陽エネルギー等を活用し、地球環境に配慮した質の高い住宅地の形成が求められています。

そのため、地区計画などのルールづくりや地域住民による緑化や美化活動のほか、省エネ設備の利用など低炭素のまちづくりへの取組みにより、いつまでも住み続けたいような、誇りの持てる住宅地の形成を目指します。

また、高齢化の進展にも対応した、移動等が容易な環境づくりに向けて、コミュニティバスなどの利便性の高い交通機関を検討するなど、だれもが暮らしやすいまちとなるよう、地域住民や行政などが連携した取組みを進めます。

目標 10 安全・安心に暮らせる住宅地

起伏に富んだ、文化かおる緑のエリアでは、特に池上通りの西側において狭い道路が走り、交通手段も限られていることから、往来するのが不便な状況にあります。また、安心して住むことができるよう、火災やがけ崩れなどの防災対策や犯罪に強いまちづくりを進めていくことが重要となります。

そのため、老朽建物の建替えや急傾斜地の安全確保を図るとともに、地域住民と自治会・町会が主体となった防災・防犯活動の強化などを進め、防災・防犯に対する地域の意識の向上を目指します。

目標 11 住宅地と調和した身近な商店街

線状に商店街が広がる駅西口は、住宅地の身近な商店街として発展してきました。しかし近年は、大規模店舗との競合や後継者不足などから売り上げも年々減少しています。

そのため、個性のある商店づくりや商店街同士が連携したイベントの実施、医療機関と連携した健康相談や宅配など住民の健康や暮らしを支える身近なサービスの充実を図ります。また、だれもが買物に来やすいよう、自転車等駐車場や快適な歩行空間を確保します。